



見沼小だより

令和4年度 第2号

令和4年5月2日発行

TEL 048-663-7342

<https://minuma-e.saitama-city.ed.jp/>

めざす児童像 世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子

プログラミングが初出題！

～全国学力・学習状況調査「算数」から～

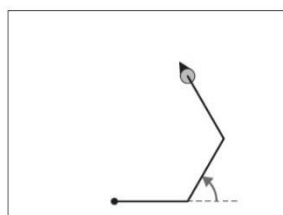
校長 佐藤 俊夫

青葉若葉のさわやかな季節となりました。4月下旬には夏日となる日もあり、校庭では熱中症温度計での計測も始まっています。日に日に夏が近づいていることを実感する毎日です。

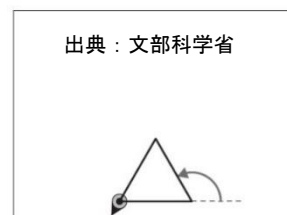
さて、4月19日（火）に6年生を対象に全国学力・学習状況調査（以下、全学調）が行われました。これは全国の小学6年生、中学3年生が一斉に行う調査で、児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立っています。今、国が求めている力が出題されており、今後の指導の参考にしています。

今年度の算数の問題には、プログラミングの問題が初めて出題されました。プログラミングと言っても、特別なコンピュータ言語を使ったものではありません。いわゆる「プログラミング的思考」を活用したものです。1つ取り上げると次のようなものです。「正三角形を描くためのプログラムを作成したのですが、正しく描けませんでした。どうすれば正しく描けるでしょうか」、というような趣旨の問題です。（ざっくりですが……。実際はかなりの長文です。）

- ①5cmの直線を引く
- ②左に60°回転する
- ③5cmの直線を引く
- ④左に60°回転する
- ⑤5cmの直線を引く



実際の結果



かこうとした正三角形

このまま、このプログラムを走らせると「実際の結果」のようになってしまいます。それは正三角形の1つの角が60°だということがわかっている子ほど、勘違いしてしまう例です。ここでは左に回転する角の大きさは $180 - 60 = 120$ を導き、120°としなければなりません。タブレットを使って実際にやってみるとよくわかります。昨年度、算数の授業でタブレットを使って学習した際は理解していたのですが、こういったペーパーテストになると解けない子が多い実態が見えてきました。

今年度、6年生全員に、文科省から採点結果が届く前に自己採点をさせました。少しでも早く分析を進め、指導に生かすためです。全国平均点など、今後の分析を進めないといえぬところもありますが、本校の児童は長めの文を読んで、じっくり考えることが苦手な子が多いように感じています。全学調は長文の問題が多いのですが、今回「無回答」だった設問が多かったのです。理科や国語の問題でも言えることで、文を読んで、問われていることを理解し、じっくり考えるところまでたどり着いていないのかもしれませんが。情報を正確に理解し、問題を解決し、発信していく力が求められています。さらに今後は紙だけではなく、タブレット上のデジタル文から情報を読み取る力も求められています。

今年度より、STEAMS（スティームス）タイムが始まります。Science（理科）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術、文化等）、Mathematics（数学）、Sports（スポーツ）です。ここでは探究的な学習を、プログラミング的思考をはぐくむ学びを含めて進めていきます。今年度は高学年を中心に人型ロボット Pepper（ペッパー）くんをお借りして学習を展開する予定です。

全学調は求められている学力の一部です。そのことを十分に理解した上で、引き続き、教職員一同、今回の調査の分析を進め、指導に生かして参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。